



今こそ、各ふるさと会の会員が心ひとつにして、
北の大地のため、日本の再生のために、立ちあがろう

北海道ふるさと会連合会 会長 伊野 達哉

ふるさと会連合会の会員の皆さまには、お変わりなく、お元気で過ごしのことと拝察いたします。2011年は、私たちにあって、決して忘れることのできない年となりました。

3月11日、東日本を襲った古今未曾有の惨事、そのあまりの凄絶さに、茫然自失、なす術もなく、無力さのうちひしがれました。

そうしたおりに、私たち日本人に「元気」と「勇氣」を与えてくれたのは、奇跡ともいえる世界制覇を果たしたなでしこジャパンです。その勝利の瞬間を「日本の復興」に重ねた人も多かったのではないのでしょうか。大丈夫！日本は必ずよみがえることができる。と。

*第34回「北海道ふるさと会」連合会の総会について

2011年4月23日(土)、日本教育会館(東京・竹橋)において、第34回定期総会・懇親会を開催。計77団体のふるさと会(出席数56団体、委任状21団体)で会則規定により、開会成立となりました。(総出席者は98名)。

役員改選期にあたったために、事前に理事選考委員会を設立。理事候補者を推薦し、そのなかから、会長及び監事を互選、総会において承認されました。新会長として再任された私が、心あらたな気持ちで、謹んでお受けする旨を申し上げました。次に連合会の2010年度の事業計画などが順調に運んだことを報告。高橋はるみ氏が全選挙区において圧倒的な勝利を収め、3期目の北海道知事に当選したとの報告もいたしました。また、東日本の大震災により、連合会の協賛法人も含め多くの企業が大打撃を受けたため、今年度の活動計画、予算案なども、従来になく厳しくなると想定され、そこで、進行中の事業計画をはじめ、すべてに慎重に取り組んでいたと望みました。

さらに、出席の皆さんの賛同を得て、その場で、東日本大震災の「義援金」を募集。連合会からの見舞い金を加算、総会の3日後には、北海道新聞社を通して、送金いたしました。各ふるさと会及び企業法人各社には、今一度、厚くお礼申し上げます。

*35回目の総会に向けて、連合会のさらなる進展を

光陰矢の如し、2012年には、35回目の総会を迎えます。節目の年となるにあつて、連合会の更なる前進のためにも、特に役員の方々には、これまで以上に、なお一層の役割意識をもって任に臨んでいただきたいと心から願っております。

そこで、4つの部会が協同団体と一体となって運営強化を図っている状況をここにあらためて列記。各人が、再認識していただけたらと思っております。①総務部会 総会及び新年交礼会(賀詞交換会)、各ふるさと会との運営協議会(講演会などを含む)の開催を目的とする。②産直部会「北海道フェア・in代々木」と共催、各ふるさと会の物産販売、観光PRを行う。連合会最大のイベントなので、特に公益性を意識して開催。北海道の発展に寄与することが目的。③事業部会 各ふるさと会との親睦を図り、年間を通していろいろなサークル活動を行う。例えば、年2回、サッポロビール工場の見学

と納涼会を実施。観光バスでの一泊旅行などの企画。④広報部会 各部会の催事、会員の近況、北海道の現状などの報告を集め、編集して、会報を発行する。また、名簿の作成も行う。以上の4つの部会から生じるものもろの事務処理、会計など担当し、各部会を支援して行うのが事務局です。つまり、事務局は、なくてはならない「まとめ」の役割を果たしている存在だといえます。連合会に加入している「ふるさと会」(85団体、約5万5000人)は、前述の4つの部会のいずれかに、協同団体として所属。所属した部会において、協調・協力して活動を行うとともに、各会の懇親会などを開催し、各ふるさと会の貴重な意見を収集、チーム組織の原動力としています。

各部会の代表を務めるのは、副会長です。さらにその下に、担当理事5、6名ずつ配属。自由活発な活動ができる体制づくりとなっております。そして連合会では、これからも、各ふるさと会と北海道のさらなる発展のために、持てる限りの力をつくして、貢献していきたいと心から祈念しております。

